



このたび、TEZUKAYAMA GALLERYでは、小池一馬、今野健太、中谷ミチコ、七搦綾乃の4名の彫刻作家による企画展「Solidaholic 固体中毒」を開催いたします。

本展のタイトルとなっている『Solidaholic』は、作家たちが展覧会について対話を重ねる中で生まれた造語で、「固体」を意味する〈Solid〉と、「中毒」を意味する〈Holic〉から作られています。〈Solid〉には「確かな/〔材質・色などが〕純粹の」といった意味もあり、“彫刻”と親和性があるワードです。素材に力が加えられ、緊張感のある凝縮された形を得た時、素材は彫刻という固体になるのではないのでしょうか。『Solidaholic 固体中毒』- マテリアルや形態といった物質性から離れることのできない、不自由な“彫刻”に取り憑かれた作家たちの熱意が伝わる展覧会名となっています。

本展覧会を企画した小池は、「自分と同年代に、独自の彫刻表現を模索し続けている魅力的な作家が沢山います。一目見れば、すぐに誰の作品かわかるくらい、その特徴や個性は顕著です。今回の展示に参加する4作家はそれぞれ、陶・石・石膏・木と異なる彫刻の初源的素材を軽やかに扱っています。4名の作家にとって“彫刻”という概念は、当然一つではないでしょう。しかし、それぞれの作品に通じる“何か”を探し出して注意深く配置することによって、反発や緊張、繋がりや共有を生み出して稀有な空間を生み出したい。」と言います。

現代で彫刻を模索し続ける4作家の展示空間を、この機会に是非ご体感くださいますようお願い申し上げます。

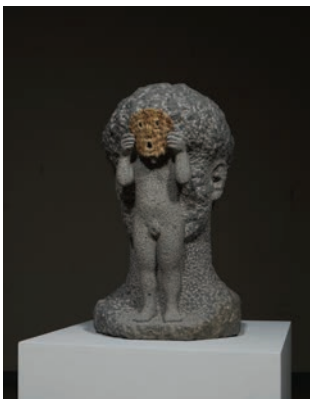
小池 一馬 | Kazuma Koike



1980年神奈川県生まれ、大阪府在住。幼少期をブエノスアイレス、高校時代をバルセロナで過ごし、2003年に日本大学芸術学部美術学科彫刻専攻卒業。「架空の古代遺物」をテーマに、偶像、ツボ、大型ネコ類、茂み、パイナップルなどをモチーフにしたセラミック彫刻、ペインティング、ドローイングを制作しています。「異なる要素が調和しながら共存した状態」や「モノの用途や意味が変化する過程」への関心のもと、異なる場所/時代に由来するイメージをミックスして作られる作品は、どこにも属していないかのような独特の浮遊感をまとっています。

主な展示に、cadet capela (パリ 2023)、私立大室美術館 (三重 2021)、AISHONANZUKA (香港 2019, 16, 13)、TEZUKAYAMA GALLERY (大阪 2020, 17, 14) での個展や、Djordje Ozbolt氏との2人展/AISHONANZUKA (香港 2023)、Henrik Godsk氏との2人展 /HAGD Contemporary (アールボロー 2023)、グループ展「BLACK」puls contemporary ceramics (ブリュッセル 2023) があります。

今野 健太 | Kenta Konno



1980年東京都生まれ。2009年に東京藝術大学大学院博士後期課程美術専攻を修了。自分自身を把握することさえ出来ない人間の不確かさや存在への不安をテーマに石彫による人体彫刻を制作しています。近年は大型作品の制作時に発生する端材を用いた自身の掌のディテールと古代彫刻を融合したような小作品群「テノヒラ」や、植物や布等の繊維素材を用いた編み物と石彫を組み合わせたシリーズ「アムカオ」「ホネトニク」など、石の持続性と異素材の循環性に着目し表現の幅を広げています。

主な展示に、広島芸術センター (広島 2022)、HARMAS GALLERY (東京 2020, 19, 14)、日本橋高島屋美術画廊X (東京 2017, 14)、現代HEIGHTSgalleryDEN (東京 2012, 07) での個展や、「間 そうぞうのよはく」graf porch (大阪 2023)、つくばアートサイクルプロ ジェクト2021-2022「アントロポセン 一分岐点を越えた景色-」(茨城 2022)、「彫刻 - 気概と意外」東京芸術大学大学美術館陳列館 (東京 2016)、「行為の触覚 反復の思考」上野の森美術館 (東京 2012) 等のグループ展への参加があります。

中谷 ミチコ | Michiko Nakatani



1981年東京都生まれ。2014年ドレスデン造形芸術大学Meisterschülerstudium修了。一般的なレリーフとは異なり凹凸が反転している立体作品を制作。粘土で成形した原型を石膏で型取り、粘土を取り除いた空の雌型に透明樹脂を流し込み充填することで、イメージの「不在性」と「実在性」の曖昧さを「彫刻」という具体的存在として問う。2014年より祖父が住んでいた三重県の空家に転居。旧犬の首輪工場を改装した「私立大室美術館」で毎年敬老の日に作品を展示する「when I get old」プロジェクトを継続中。

主な展示に、アートフロントギャラリー(東京 2022, 21, 19)、三重県立美術館柳原義達記念館 (三重 2019)、私立大室美術館 (三重2023, 21, 20, 19, 18, 17, 16)での個展や、「丸の内ストリートギャラリー」(東京 2022)、「越後妻有大地の芸術祭」(2018 新潟)「20th DOMANI・明日」国立新美術館 (2018 東京) 等のグループ展への参加があります。2020年に東京メトロ・虎ノ門駅にパブリックアート「白い虎が見ている」を制作。2010年VOCA展奨励賞受賞、2020年タカシマヤ美術賞、2023年中原悌二郎賞受賞。

七瀬 綾乃 | Ayano Nanakarage



1987年鹿児島県生まれ。2011年広島市立大学芸術学研究科彫刻専攻修了。山や森などの雄大な自然や、虹や霧などはなく消えていく自然現象をテーマとし、そこに独自の解釈や見立てを交えて「自然の時間」や「死」のイメージを木彫作品とドローイングで制作しています。「rainbows edge」シリーズでは、自然物の変化していく時間を布のモチーフと融合させた形で表現しています。

主な展示に、金沢21世紀美術館 (石川 2018)、広島芸術センター (広島 2018)、BankART NYK (神奈川 2017) での個展や、「リアル (写実) のゆくえ 現代の作家たち 生きること、写すこと」(平塚市美術館他、2022-23)、「Sustainable Sculpture」Komagome Soko (東京 2020)、「9人の眼-9人のアーティスト」渋谷ヒカリエ8 (東京 2020) 等のグループ展への参加があります。

2023年VOCA 奨励賞・大原美術館賞、2017年「Tokyo Midtown Award 2017」準グランプリ、2016年第10回資生堂art egg賞受賞。

□ 参考作品 | Artworks



1.



2.



3.



4.

- 1. BC230802, 2023, Ceramic, H410×W190×D175mm / Kazuma Koike
- 2. ERANAI-HITO, 2022, sandstone,japanese ginger, raffia, H640×W400×D230mm / Kenta Konno
- 3. シリーズ 夜を固める | 焚き火, 2019, resin, pigment, plaster , H145×W145×D145mm / Michiko Nakatani
- 4. rainbows edge VIII, 2018, camphor tree , H590× W1880 × D530 mm / Ayano Nanakarage

□ 展覧会情報 | Exhibition Info

Solidaholic 固体中毒

[Artists]

小池 一馬 | Kazuma Koike

今野 健太 | Kenta Konno

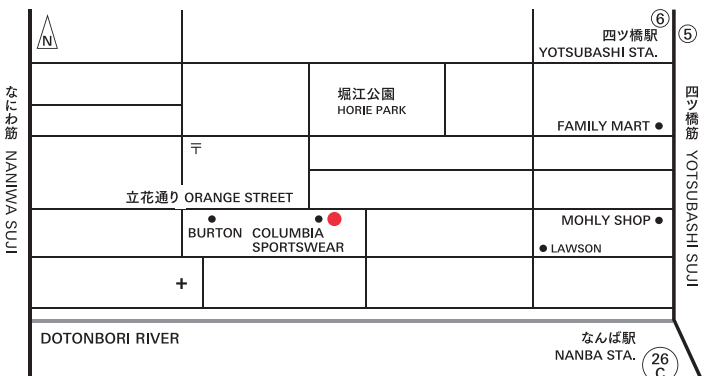
中谷 ミチコ | Michiko Nakatani

七瀬 綾乃 | Ayano Nanakarage

2023.11.24 [Fri] - 12.23 [Sat]

会場: TEZUKAYAMA GALLERY - VIEWING ROOM

営業時間: 火 - 土 12:00 - 19:00 | 休廊日: 日曜日・月曜日・祝日
 OPEN: Tue - Sat 12:00 - 19:00 | CLOSED: Sunday, Monday and Holiday
 お問い合わせ: info@tezukayama-g.com / 岡田 (TEZUKAYAMA GALLERY)



〒550-0015 大阪市西区南堀江1-19-27山崎ビル2F
 Yamazaki Bldg. 2F, 1-19-27 Minami-Horie, Nishi-ku, Osaka,550-0015 JAPAN
 tell: +81 6 6534 3993 / instagram: tezukayama_g